

報告タイトル

2010年代におけるカンボジアの中国向けのキャッサバ輸出の拡大に関する考察

The cassava production and exportation in Cambodia driven by Chinese transnational corporations from 2010 to 2020

氏名(所属)

劉澤文(九州大学)

LIU ZEWEN (University of KYUSYU)

要旨(800字程度)

世界のキャッサバ生産量は、1960年代以降の50年で倍以上に増加している。中でも、2000年代後半からカンボジアにおけるキャッサバの生産と輸出の伸びが目覚ましい。背景には、中国多国籍企業が、カンボジアの経済土地専有利用権(Economic Land Concessions: ELCs)を通じて農地を取得し大規模生産を行っていることがある。

先行研究では、東南アジアにおける輸出商品作物の生産とその担い手に関して、企業による大規模生産よりも、小農生産が農村の包括的な開発を促進することが指摘される(Rob Cramb et al. 2017)。一方、大規模生産については、インフラ整備、生産技術や品種改良への役割に言及されるに留まり、その商品作物生産の実態は、詳細に検討されていない。また、カンボジアのELCsについては、中国やベトナムの多国籍企業による土地収奪が注目されるが、具体的作物及びその生産実態は明らかにされていない。

そこで、本研究は、中国多国籍企業によるELCsを通じたキャッサバの大規模生産と生産性向上及び輸出拡大の関連性について検討し、2010年代におけるカンボジアのキャッサバ生産と輸出の実態と課題を考察することを目的とする。まずFAO、UNcomtrade、カンボジア統計局のデータから、カンボジアにおけるキャッサバの作付面積、生産量、および輸出の拡大について分析する。次いで、中国政府機関資料及び中国語文献から、中国企業によるELCsを通じたキャッサバの生産拡大について、改良品種や生産機械の導入、一次加工品の生産拡大について検討する。さらに、ケーススタディによって、中国多国籍企業の農地取得及びキャッサバ生産と輸出の実態を明らかにする。最後に、本論を小括し残された課題を示す。

本研究では、2010年代のカンボジアにおけるキャッサバ生産と輸出拡大が中国企業によって牽引されてきたことを明らかにする。カンボジアのキャッサバ生産が、規模拡大、生産性向上、一次加工技術、および輸出市場の面で、中国への依存を深めており、中国企業の活動と中国国内の需要に左右される状況にある。中国におけるキャッサバの需要構造の解明を、今後の研究課題としたい。